国際ロータリークラブ第2730地区　日南ロータリークラブ

週　　報

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

「ロータリーの原点に戻る」

例会日　毎週水曜日　12：30～　　例会場　ホテルシーズン日南
住所　日南市園田3-11-1　TEL 0987-22-5151　FAX 0987-22-9588　　会長　豊田裕康

地域社会の経済発展月間

第3278回例会		№08	2021.10.22	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12時30分　「国歌」　「日も風も星も」			
ロータリーの目的、四つのテスト	入中英雄　君			
ゲスト	井福博文ガバナー（都城西RC） 日髙章太郎ガバナー補佐（日南RC）			
ビジター	吉原信幸君（都城西RC）			
例会行事	ガバナー公式訪問例会			

会長時間

本日は，今後の当クラブの会員増強にとって重要な要素となります，日南市の人口の推移についてご説明したいと思います。まずは，お手元の日南市人口推移一覧表をご覧下さい。

お手元の人口推移表には，大正9年の第１回国勢調査からの全データと今月の最新データ，将来分については，国の推計データと日南市の独自推計データを併記しております（国立社会保障人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来推計人口」に基づくデータ及び昨年改定された日南市人口ビジョン）。平成２１年の現日南市誕生前については当時の市町村データを合算しております。令和3年10月1日時点における最新データをみると，日南市の人口は49,234人となり，大正9年の第１回国勢調査の数値を下回りました（旧日南市36,860人（吾田地区17,973人），旧北郷町3,789人，旧南郷町8,585人）。

この人口推移表によりますと，日南市では，第１回国勢調査から一環して人口増大が続き，昭和30年の86,889人がピークで，昭和55年に一旦増加に転じるものの，その後は現在に至るまで人口減少が続いております。

宮崎県全体ですと，日南市と同様に昭和30年まで増加した後に一旦減少に転じますが，その後再び増加傾向となり平成７年ころにピークを迎えて人口減少局面に入っております。日南市で昭和30年代に人口のピークを迎えているのは，やはり林業と漁業のピークであったことと，その後の高度経済成長で都会へ人口流出していったというのが理由であると思います。林業の盛んであった旧北郷町の人口は現在の倍以上の9000人を超え（現在3,789人），漁業の盛んであった旧南郷町の人口も1万5000人を超えていました（現在8,585人）。

県内の自治体のうち，宮崎市については一環して人口が増大し，昭和30年代から倍増しています。都城市や延岡市については，現在では減少局面となっていますが，最近まで増加傾向が続き昭和30年代と同等あるいはそれ以上の人口を抱えています。お隣の串間市については日南市以上の人口減少で，昭和30年代には42,000人を超えていた人口が，現在では1万7000人程度となっています。

これを見ますと県南地区とそれ以外の地区とでは人口減少に対する危機感が全く異なるのではないかと思います。都城市は今後10年で約1万人の人口減少が見込まれ，日南市も今後15年で約１万人の人口減少が見込まれています。しかし，人口１６万人弱の都城市の人口が今後１０年で１万人減るのと，人口５万人弱の日南市の人口が今後15年で１万人減るのとでは，社会構造や地域経済に与えるダメージは大きく異なります。先ほども申し上げましたが，日南市の人口はとうとう5万人を切り，大正９年の第１回国勢調査時の人口を割り込んでしまいました。ただ，大正9年当時の日本の総人口は約5500万人で，現在の総人口は約1億2,600万人で大正9年当時の倍以上の人口であるということを考えると，この人口減少が危機的というのが実感されるのではないかと思います。日南市は，まさに経験したことのない人口減少社会に突入し，このままの減少ペースが続

くと令和47年には人口が2万人を割り込む直前にまで至る見込となっております。
　また，日南市の人口の年齢別構成を見てみますと，20歳から29歳までの人口が最も少なくなっております。これは，日南市内の高校卒業後，進学や就職により若者がほとんど日南市外に出て行ってしまうことが原因と思われます。
　日南市内の各地区内の格差も深刻で，旧日南市内人口の半数が吾田地区に集中し，吾田地区のみでいえば人口減少率が2％台ですが，その他の地区は10～25％の人口減少率となっています。特に，鵜戸，酒谷，細田の3地区では若年層の流出が続き，65歳以上の高齢者の占める割合が50％に迫る状態となっております。
　若年層の人口流出が加速していく中で，一つだけ明るいきざしといえば，女性に限っては人口流出が改善しつつあり，特に25～29歳の年代においては，平成30年に転入超過に転じています。確かな理由は分からないのですが，日南市内では医療職や介護職において女性のニーズが高く女性の職場と収入がある程度確保されているのも理由であると思われます。また，１人の女性が一生に生む子供の平均数である「合計特殊出生率」については国（1.4前後）よりも高い状態を継続しております（1.7前後）。
　この出生率が高いという点を活かすため，日南市の計画では，①今後10年で出生率を2.07にまで上昇させてこれを維持するという目標を掲げています。
さらに，②企業誘致などによる転出抑制・転入増加によって若年層の転出超過を改善し，③高齢者の健康寿命延伸対策をとることで，令和47年に23,000人の人口を維持するとの目標を日南市は掲げています（何も対策と取らないよりも2000人前後の人口減少を食い止める）。
　以前騒がれていました団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題はもう目の前にきており，まだまだ先のことと思っていた2040年問題も目前に迫っております。2040年問題とは，団塊ジュニアが高齢者となって現役世代が急減し，現役世代1.5人で１人の高齢者を支える社会となり社会保証制度が崩壊の危機に立たされ，地方自治体の半数が消滅の危機に立たされると予測されている問題です。これに対する対策は，団塊ジュニア世代が働き続けるしかないとされており，まさに団塊ジュニア世代である私も年金を65歳でもらい始めるのはおそらく無理だろうと思っています。また，人口減少に伴い20年後には空き家率が40％を超えると見込まれており，放置され朽廃されていく空き家対策が急務となり，無計画に建築された賃貸住宅の経営破綻が連鎖する可能性が指摘されています。
　最初に申し上げましたが，宮崎県全体では平成７年前後に人口のピークを迎えて本格的な人口減少局面に入って25年という状況ですが，日南市は昭和30年前後にピークを迎えてから約60年間人口減少対策をした結果が現在の状況ということになります。会員の皆様の事業所でも若い世代の労働力確保には苦労されていることと思いますが，若年女性層が日南市に戻りつつあるという希望も見えてきているところでありますから，若い世代の積極雇用に努力していただければと思います。

幹事報告

1）　串間ロータリークラブより、週報が届きましたので回覧致します。

スマイル

黒岩久登君　先日開催された、IM 実行委員会後の食事会の残金をスマイルします。参加者は８人でした。
齋藤奈々君　今月 16 日で、創業 50 周年を迎えました。長い間続けてこられたのも、皆様のお陰です。
今後ともよろしくお願いいたします。

例会行事　　ガバナーアドレス　井福博文ガバナー（都城西 RC）

本年度の RI 会長はインドのシェカール・メータさんです。メータさんはロータリーがロータリアン個人に与える最高の栄誉である超我の奉仕賞を受賞されていて「奉仕」には格別な熱い思いを持っておられる RI 会長です。奉仕に目覚めたことで単なるロータリークラブの会員からロータリアンになった、奉仕とは自分よりも他の人のことを先に考えることです、そして奉仕にはロータリアンのＤＮＡがあり、奉仕することで誰かの人生を豊かにすることは自分の人生の最高の生き方である、ですから「奉仕は誰かの人生だけでなく、自分の人生も豊かにする」と、奉仕に対する心構えをバーチャルで開催された国際協議会で当時のカバナーエレクトの私たちに話されました。このスピーチを聞いて私も共感と感動をいたしました。

このことから本年度の国際ロータリーのテーマを「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」と発表されました。

ロータリーは会員制の組織であることから会員の増強は引き続き最も大きな課題です。より大きなインパクトをもたらす奉仕の実践にはより多くの会員が不可欠です。会員増強の一つの手段としてみんなが一人を入会させる「Each one Bring one」が提唱されました。

地区内ロータリアンの皆さんが夢を大きく持ってご自分のロータリーストーリーを身近な入会候補者に伝えることで「Each one Bring one」を情熱を持って実践して下さる事をお願い致します。

また、本年度はロータリーの原点に焦点を当て、ロータリー活動を展開していく所存です。3 年前、私達はロータリアン相互でインスピレーションを与えあい、そして地区にインスピレーションを与えてきました(Be the Inspiration)、2 年前はそのインスピレーションで世界や地区を繋ぎました。(Rotary connect the World)、そして昨年度は奉仕のための機会の扉が開かれました(Rotary opens opportunities) 。 本年度は開かれた扉の向こうに奉仕のニーズがあるのです。ですから本年度は奉仕の実 です。

そのことから 2021-22 年度地区スローガンを**「ロータリーの原点に立ち、誇りと自信を持って行動しよう」(Together we can. We are Rotarian.)**と、いたしました。

このスローガンの「行動」とはロータリー活動のすべてを指します。それはクラブの強化、会員増強、奉仕プロジェクトの計画・実行、ロータリー財団・米山記念奨学会への寄付行為、地区大会への参加、国際大会への参加、等々です。

クラブフォーラム

「日南 RC の課題について」　　榎木田大資君

ガバナー・会長もお話をしていました課題は会員の増強だと思います。

RCに入ってよかったことは、私は青年会議所、法人会青年部などに入会していました。この二つの団体は年齢制限があり横の繋がりはできました。しかしロータリークラブは卒業がありませんので縦の繋がりができました。私は小学校までしか日南にいなかったので、先輩たちから昔の話や色々な話を聞けて勉強になりました。

日南RCは地域の宝である子供たちにわかば奨学金や高校生模擬面接をしてこの地域になくてはいけない存在です。

会員の増強で一番大切な事はロータリアン一人一人が増えれば地域の力になる、一人では何もできなく10人集まれば少しは力になる100人集まれば地域が変わるとも思います。この地域は未来から借りているものだから未来に地域をよくして帰さないといけないと考えています。

「青少年奉仕活動について」　　井野畑善順君

1）高校生の就職支援セミナー（通称模擬面接）は2004年から開始して、毎年欠かさず9月初旬に行っていました。しかし、昨年と本年はコロナ感染防止の為に学校側とも協議をし、やむなく中止とさせて頂きました。

学校においても面接に関しての研修や、先生方を面接官に見立ての面接練習はされているようですが、私達の模擬面接は、初対面の現役の各経営者や各企業等の代表と成るメンバーが面接官と成ります。生徒さんにとっても良い緊張感を体験でき、学校側からも「良い企画で大変有難い。」と、毎回好評を頂いております。来年は開催出来る事を願っていますが、来年で第17回開催となります。

2）2004年に当クラブの創立50周年記念事業として「日南ロータリークラブ奨学会わかば」が設立されました。目的は、日南地域で学ぶ優秀な高校生や専門学校生に資金援助を行い、社会貢献に意欲を燃やす生徒の育成にあります。第一回の奨学金授与式は、翌2005年で、今年は17回目の授与式になります。

資金については、2005年に400万円を確保し、その後毎年会員からの寄付金と、2017年からの地区補助金、2018年から「わかばランチ」を設けて差額を委員会に寄付しています。

2005年～2021年までの17年間で延べ75名の奨学生に640万円の奨学金を支援支給してきました。2021―2022年度では6名の生徒に一人12万円の支給を予定しています。

3）2019-2020年度より、日南市少年野球秋季大会の協賛を行っております。優勝と準優勝チームに記念メダルとボールを贈呈させて頂いております。

「宮崎南部分区 IM の計画について」　　竹井崇利君

宮崎南部分区IMの計画についてお知らせ致します。日程は令和4年2月5日（土）を予定しております。井福博文ガバナーにおかれましては、ご都合がよろしければ、是非ご出席いただきご挨拶をいただきたいと思っております。

講師は、当クラブ会員の峰松俊夫会員です。日南市内の愛泉会日南病院のドクターです。

専門は感染症です。今現在、宮崎県新型コロナウイルス感染症対策協議会の委員であり、日本医師会の予防接種・感染症危機管理対策委員会の委員でもあります。講演内容は「人類の歴史の中のパンデミック。ロータリークラブのこれまでのポリオに対しての支援。新型コロナウイルス感染症対策について」です。人類が直面してきた最大の脅威とは何か？多くの人が命を落とす点では、戦争、テロ、地震や洪水、台風などの自然災害、そして何より、感染症です。このうち、最も多くの死者を出してきたのがウイルスによるパンデミックです。

新型コロナウイルスは、今、収束に向かってはおりますが、第六波が心配されるところです。ワクチン2回接種は、全国民の65.8%になります。65歳以上の高齢者は89.9%です。しかし、12歳から19歳の接種は36.6%、20歳代は45.8%という現状です。もちろん、高齢者から接種が始まりましたので、若い世代のなかにはこれから接種を受ける人もいることでしょう。若い世代の接種が60%、70%に増えれば感染者を減らすことは明白です。

今回、高校生を対象に講演会を企画いたしました。新型コロナウイルスとはどういう感染症なのかを理解していただくことで、若い世代のワクチン接種が進むひとつの機会になればと思っております。そして、今回の講演がワクチン接種の啓発につながればと思っております。

そして、感染の中に放り込まれたときの人間の本能的な心理は、時代が変わっても変わらない面があります。それは病気に伴う差別や恐怖心だと思います。誤った差別で人を傷つけていないか。子供たちに考えてもらいたいと思います。また、100年前に人類は世界はスペイン風邪のパンデミックに襲われました。当時の日本の人口は約5500万人に対して、2400万人が感染（43%）、40万人が亡くなりました。亡くなった祖父母は当時10歳前後です。当時はどういう状況だったのか、私にその関心があれば確認していたでしょうが、残念ながらその意識がありませんでした。このように、教科書の記述はあっても薄いもので、ほとんど説明がなされていません。人々が疫病の中をどう生きたのか。どうやって命を守ってきたのか。そのことを若い世代に伝えていくことが必要ではないでしょうか。新型コロナウイルスに代わる疫病が流行する人類の危機は必ずまたやってきます。

最後に、これからウイズコロナ・アフターコロナを見据えながら、活発な経済活動が戻ることを期待したいです。

ガバナー講評

会員の増強はとても大事なことだと思います。私も若いときは、ロータリーの先輩に色々な話をお聞きしました、会員同士のつながり、絆を大切にして頂きたい。

一人では何もできないけど、多くの人と助け合って行動すれば色んな事が出来ます、私達には、世界中の人とのつながりが有ります。120 万人の仲間がいます、是非、その仲間を少しでも増やして頂きたいと思います。

三つの青少年奉仕活動を大切にして頂きたいと思います。高校生就職支援セミナーは、生徒さんにとっては、すごく勉強になると思います。来年こそはセミナーの開催が出来ますよう祈っています。「奨学会わかば」も学生さんたちには励みになると思います、地区の補助金も使っていただき、これからもこの事業を末永く続けて下さい。秋の少年野球大会の優勝、準優勝チームへのメダル贈呈、子供たちも喜んでいると思います。

南部分区のＩＭの開催については、大変期待をしております。来年の２月５日、是非出席させて頂きます。本日は、公式訪問例会、セミナーとお疲れ様でした。お世話になりました。ありがとうございました。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今　週	32	7	25	19	4	2	23	92.00%
出席免除	落丸、村上、清水、渡邊、山口、甲斐、古澤							
先取MU	石灘、上原、菊池、峰松							
欠　席	斉藤、守永							

事務局〒887-0014　日南市岩崎3-4-2 Itten堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515
会長：豊田裕康　　副会長：入中英雄　　幹事：簗瀬敦　　雑誌会報広報委員長：河野通郎
雑誌会報広報委員会より　　原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jp まで送信してください。